

# 3回目や小学生への接種を至急再考すべし

「ワクチン後遺症」の現場から

医学博士 長尾和宏

## 「ワクチン後遺症」

コロナ後遺症という言葉はあるが、ワクチン後遺症という言葉はない。またワクチン副反応という言葉はあっても、ワクチン後遺症という言葉は聞かない。しかしワクチン接種後、1ヵ月以上、なかには半年近く体調不良が続く社会人や学生が現実には沢山おられる。ワクチンとの因果関係が証明できないと反論する専門家もいるが、ワクチンを打った翌日、数日後から家から出られなくなった状態が何ヵ月も続くということ自体、因果関係は明白である。1ヵ月以上続くならこれは副反応というよりも「後遺症」と呼んだ方が妥当であろう。

ワクチン後遺症の症状は実に多様である。身体の上から挙げると、頭痛、集中力の低下、長引くめまい、咽頭痛、和感、食欲不振、嘔気、胸痛、手足の関節痛や痛み、筋肉痛、微熱、倦怠感、易疲労感、歩行障害、姿勢保持障害が1ヶ月以上続く。そのため通勤や通学が困難になったり、なんとか通えても半日もたないという人が多い。在宅医療で診ている人もいる。筆者のような町医者でもワクチン後遺症と診断し

た人が30名ほどいるので世間にはかなりの人が困っておられるのだろう。いくつかの専門医療機関を受診するも「異常なし」とか「分からない」と言われて泣きながら受診される人が後をたたない。こうした実態は一切報道されていない。

## トリプルパンチ

テレビでは、専門家が「コロナに感染した人も2回のワクチンを」と呼びかけている。それを真に受けてコロナに感染してホテル療養を終えて1ヵ月もたないうちにワクチンを2回打った人が結構、おられる。するとどんなことが起きるのか。自然感染でコロナに対する免疫が獲得されているところに再度、スパイク蛋白をつくる遺伝子が入ってくるので免疫機構は大混乱し、人によっては様々な症状が現れる。3〜4週間後に2回目のワクチンを打つとさらに酷くなり社会生活から脱落してしまふ。

ボクシングで、強烈なボディブローの後に強烈なフックパンチとカウンターパンチを受けてトリプルパンチを浴びてダウンしたように映る。頻度は稀なのだろうが決して見過ごせないワ

クチンリスクが存在している現実をこの場をお借りして政府関係者にお知らせしたい。

様々な薬物やサプリメントを用いて試行錯誤の連続で治療をしている。少しでも早く、ワクチン以前の状態を取り戻してあげたい。その一心であるが、ワクチン後遺症の病態や治療法に関する情報はあまりにも少ない。もしもしたら、これはサリドマイド薬禍や水俣病などの薬害や公害の発端を見ているのだろうか。

## ME/CFSは

ME/CFSとは、神経免疫系の難病である筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群の略で、WHOの国際疾病分類のひとつである。従来からウイルス性疾患の流行後に集団発生し、厚労省の調査では約3割が寝たきりに近い深刻な病態を呈するという。コロナの全感染者の約1割がME/CFSを発症すると推計されており、そのうち7割が職場や学校に戻れないことも分かっている。NPO法人「筋痛性脳脊髄炎の会」が国会に「新型コロナウイルス感染症と筋痛性脳脊髄炎の研究を求める請願書」を提出した結果、超党派の125

名の国会議員が紹介議員になり衆参両院で議論された。国立精神・神経研究センター病院はこの夏にコロナ後遺症外来を開設し、同センター神経研究所免疫研究部長の山村隆先生を中心にコロナ後のME/CFSを診療している。

ME/CFSの症状とは、睡眠障害、頭痛、筋肉痛、思考力・集中力の低下、筋力低下、起立不耐性、体温調節障害、光・音・食物・化学物質への過敏症などが長期にわたり持続する。ほとんどの患者が職を失い経済的に困窮している。慢性疲労症候群という病名ゆえに疾患の深刻さが矮小化され、ほとんどの医療関係者が「疲労の病名」怠けて

いる」と思い込んでおり、患者さんは偏見と誤解に苦しんでいる。難病指定にも障害者総合支援法の対象疾患にもなっておらず介護が必要な状態でも福祉サービスが受けられない。専門医がほとんどいないために診断すら受けられない人が日本中に多数おられる。筆者が診ている「コロナ後遺症」の中にはME/CFSとおぼしき人はいないが、「ワクチン後遺症」の中にME/CFSを疑う人が何人かいる。恐ろしい事に小学生や中学生や高校生もいる。

## 3回目や小学生への接種の再考を

欧米のあとを追いつ、日本において

も3回目のブースター接種が認められ今後、多くの人が受ける。しかしそれに比例してワクチン後遺症の患者もさらに増えることを強く懸念している。

日本人に対する新型コロナウイルスへのmRNAワクチンは2021年2月14日に厚労省から出た1通の通知に基づいている。その文書には「本剤は新型コロナウイルス感染症の予防に關する有効性を期待して承認されるものですが、本邦における安全性等に関する情報が限られているため」と書かれている。要は、「安全性は不明だが、特例的に承認」されたから半年以上が経過したところ

だ。そして厚労省のHPに掲げられている約1400人の死亡例の後ろにはその数倍以上の重篤な副反応や後遺症があることが分かっている。現在、日本における新規感染者数は激減している。一方、接種率が8割以上であるお隣、韓国において感染が再拡大している。従って日本における第5波の収束の理由はワクチンだけでは説明できない。しかし3回目のブースター接種や小学生の接種が始まり、不要なワクチン差別や偏見が横行し、後遺症が増えている。筆者は3回目接種や小学生への接種は極めて慎重な態度で再考すべきと考える。

# 長尾和宏の「生」と「死」



長尾和宏  
(ながおかずひろ)

医療法人社団裕和会理事長、  
長尾クリニック院長

1984年 東京医科大学卒業、大阪大学  
第二内科入局

1991年 医学博士(大阪大学)授与

1995年 兵庫県尼崎市で長尾クリニックを  
開業、現在に至る

日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス  
在宅ケア研究会理事、日本尊厳死協会副  
理事長、全国在宅療養支援診療所連絡会  
世話人、関西国際大学客員教授

【医学博士】

日本消化器病学会専門医、日本消化器内  
視鏡学会専門医、指導医、日本在宅医学  
学会専門医、日本禁煙学会専門医、日本  
内科学会認定医、労働衛生コンサルタント

【著書】

『平穏死・10の条件』、『抗がん剤・10  
のやめどき』、『糖尿病と膵臓がん』など  
多数。『痛くない死に方』と『痛い在宅医』  
は、映画化され、2021年春公開。『小説  
安楽死特区』も即重版し、アマゾン1位。  
最新作は「ひとりも、死なせへん」。



月刊

2022

1

# 公論

世界の視点で  
情報を発信する  
総合誌

岸田首相はわかりやすい言葉で  
明確な国家戦略を国民に語るべき

**提言** 本誌主幹 **大中 吉一**

連載 **政界展望** ジャーナリスト **鈴木 哲夫**

新体制の立憲民主党と派閥抗争前夜の自民党

先人に学び、日本を哲学する⑫ (株)人間と科学の研究所 **飛岡 健**  
所長

日本の再成長戦略の為に経済不況の正しい分析の仕方

**TOPインタビュー⑰** 因幡電機産業株式会社 **守谷 承弘氏**  
代表取締役会長

企業としての提案力の醸成と自社ブランドの構築が成長の鍵

琉球舞踊 組踊立方  
宮城流 師範

**宮城 茂雄氏**



日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社  
代表取締役社長

**野津 基弘氏**



リレー  
対談

琉球王朝の  
歴史伝統文化を  
軸としてある  
企業活動

自由と自立 愛情と覚悟の精神を貫いた祖父